上組小・平沢君ダブル優勝

田上小長南君、燕南小一年齋藤君も健闘、ロボコンジャパンカップ決勝大会

手作りロボットの完成度や操作技術で小学生日本一を争う「ロボコンジャパンカップ」の決勝大会が十六日、三条商工会議所で開かれ、予選を含め過去最多の参加者百六十人の中から、長岡市立上組小学校六年の平沢快勢（ひらさわ・かいせい）君が個人戦優勝、団体戦でも平沢君と同小学校六年の山内達也（やまうち・たつや）君、新潟市立結小学校五年の大和祥也（やまと・しょうや）君のチームが優勝し、個人戦、団体戦のダブル優勝を果たした。

県央地区勢は、個人戦準優勝に田上町立田上小学校五年の長南凛汰郎（おさなみ・りんたろう）君、三位に燕市立燕南小学校一年の齋藤佑成（さいとう・ゆうせい）君。団体戦でも準優勝に長南君。田上小学校三年の米山真王（よねやま・さだたか）君、同じく西潟匠真（にしかた・たくま）君のチーム田上小（2）、三位にいずれも燕市立吉田小学校四年生の、竹井太一（たけい・たいち）君、稲庭良河（いなにわ・りょうが）君、江口郁眞（えぐち・いくま）君のボンコツ隊と、優勝こそ逃したが上位を占めた。

ロボットの出来栄えを評価する、燕市長賞には新潟市立紫竹山小学校五年の佐藤春樹（さとう・はるき）君、三条市長賞には、一年生ながら個人戦三位入賞の齋藤君、理事長賞は唯一の女子参加者で田上小学校三年の松岡瑞子（まつおか・たまこ）さん。

特定非営利活動法人ロボコンジャパン（丸山光博理事長）が、子どもたちにものづくりの喜びを感じてもらい、地域の技術、伝統、文化を守っていく環境を整えたいと主催して十一回目で、通算一千四百人が出場した。

この日の決勝大会には、新潟市、長岡市、三条市、弥彦村で開かれた予選大会を勝ち抜いた八十一人、団体戦には十二チームが出場。丸山理事長は参加者に「今回は初参加の人が多め、過去には初参加、初優勝ということもあり、がんばってほしい」、保護者にも子どもたちが興味を持ったことから将来の可能性を広げる一助にと、それぞれ呼びかけた。

来賓の鈴木力燕市長は「燕三条工場の祭典で、改めてこの地域はものづくりの地域と認識してもらい、全国に情報発信できた。参加した皆さんにはこの地域の将来を担ってもらいたい。IoT、AI、どんどんロボットが活躍する時代、小さいうちから、どうやってロボットを作るのか考えるのは非常にいいことで、親子のコミュニケーションにもつながる事業。継続して応援していきたい」と、事業を評価するとともに参加者を激励した。

競技は三分間の対戦形式で、ピンポン玉、ガチャ玉（カプセル）、スーパーボール入りガチャ玉の三種類合計三十個を、時間内に相手陣地へ送り込みポイントを競う内容。団体戦は同ルールで一試合五分とした。

車体のサイズや足回り、電池の数は規定で定められているが、玉を集めるバケットの素材、形状などに工夫が見られ、フィールドもいっぱいに熱戦が繰り広げられた。（外山）

待ち人は、あなた
桐子より
ishimoku.co.jp

私の好きな現代短歌 (625)

首藤隆司

日本のかの日復返（またかへ）り松葉牡丹あかあか咲けり手記四百編
宮柊二

日本の終戦日が戻ってきて松葉牡丹があかあかと咲いた。手記四百編が出版された。

歌誌「コスモス」が、終戦二十周年を記念して「われわれの、その前後」二冊を出版した。手記約四百編を載せた。

天皇の回顧読みたしと述べてありわれの眼（まなこ）は其処（そこ）にとどまる

昭和天皇はこの戦争をどう思っていたのか知りたいという手記に注目した。

ほしいままものを憶（おも）ひて臆（おく）すなく長かりしかな中学の日は

長い中学生の日々は、思う存分何の遠慮もなくものを思うことが出来たなあ。

まなぶたに朱の色を塗る道化師のその下の目の鳶（とび）いろ深き

ルオー展で道化師の絵を詠んだ。瞼を赤く塗っている瞳の鳶色に深い悲しみを見た。